

ごみは正しく処分することで、資源として再利用することができます。
今回は、町のリサイクルなどの取り組みについて特集します。

の必要だ

問 環境課 廃棄物対策班 ☎(内線)3513



ペットボトルの「ボトルtoボトル」 水平リサイクル事業

サントリーグループと協定を締結し、「ボトルto ボトル」というペットボトルの水平リサイクル事業に取り組んでいるほか、町内の小学生を対象とした出張授業を実施するなど、さまざまな啓発活動も行っています。



出張授業の様子

使用済みペットボトルは年間900万本

町内の家庭から出る使用済みペットボトルの排出量は年間約180トン。これは、500ミリリットルのペットボトル約900万本分に相当し、町民1人当たり年間で230本になります。これらのペットボトルを正しく分別することで、全てが新しいペットボトルに生まれ変わります。



町内で集められた使用済みペットボトル

効率的なリサイクル、資源循環を行うため、ペットボトルの分別にご協力ください!



水平リサイクルなら資源は不滅に

水平リサイクルとは、ペットボトルを再びペットボトルとしてリサイクルし続ける取り組みです。ペットボトル以外の製品にリサイクルすると、最後はごみとして焼却されてしまいますが、水平リサイクルにより、新たな化石由来原料の使用量を減らし、循環型社会の実現に貢献することになります。

ペットボトルのボトルtoボトル
水平リサイクル



あつあいクリーンセンターのここがスゴい!

最新のごみ処理技術を採用



226トンの燃えるごみと12トンの粗大ごみを1日で処理できます。24時間連続で燃焼させ、熱エネルギーを回収



して環境負荷を減らす最新型焼却炉を採用し、3市町村から集められたごみを効率的に処理します。

安全・安心で安定稼働する施設



24時間体制での運転状況監視とともに、自動燃焼制御システムによる燃焼管理や、ごみを一定の温度で燃やするよう「ごみ識別AI搭載自動クレーンシステム」を導入することなどにより、ごみを安全かつ安定的に処理します。



広大な緑地はいざというときの備え

施設北側に約3.7haの緑地のエリアを整備。大規模災害時に、可燃性災害廃棄物の一時保管場所として使用します。平常時は芝生や水辺、遊具を備えた憩いの場として開放しています。

- 利用時間 4月～9月 午前8時30分～午後6時
10月～3月 午前8時30分～午後5時
- 休場日 年末年始（12月29日～1月3日）
- 駐車場 146台（無料）
- 主な施設 多目的広場（芝生）、大型コンビネーション遊具、幼児用遊具、せせらぎ（じゃぶじゃぶ池）、調整池兼ビオトープ、EV用急速充電器



ごみから電気などをつくる

ごみを燃やす際に発生する熱を利用して発電し、この電気で施設内の電力をまかなっているため、停電時も運転が可能で、災害時のごみにも適切に対応します。また、近隣の厚木市ふれあいプラザへ余剰電力や高温水を供給するほか、850度以上で燃やした後に残る焼却灰は道路を造る材料などに再利用されます。



特集 ごみは貴重な資源です アナタの不要はきっとダレカ

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

着なくなった服、喜んで着たい人たちがいる

中津第二小学校は、ユニクロ（株式会社ファーストリテイリング）の「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト」に参加しています。着なくなった衣服を難民キャンプなどに届ける活動を学んだ6年生たちが活動を開始し、回収ボックスの作成や校内放送で回収の呼び掛けを行ったところ、たくさんの衣服が集まりました。集まった衣服を体育館一面に広げ、下着や小物など送れない物をチェックし、種類ごとに段ボールに詰めました。これらの衣服はユニクロのプロジェクトを通じて世界の難民キャンプなどに届けられます。



集まった衣服を体育館に広げて記念撮影

子どもたちが学ぶ、リサイクルとSDGsのつながり

「子どもたちの小さな力が結集して大きな力になる。とても価値ある学びになっています。プロジェクトを進める中で、子どもたちは自分たちの活動が社会にどんな影響を与えるのかを考えるようになりました」こう話すのは6年生担任の高橋先生。リサイクル活動に参加した児童の中には、家庭でも家族に呼び掛けて不用な衣服を整理し、寄付する姿も見られたところで、児童の一人は「自分が寄付した服が、遠くの誰かの役に立つと考えたら、もっと大切にしたいと思うようになった」と話してくれたそうです。



集まった衣服を1枚1枚広げて点検



ユニクロ社員によるSDGsやリサイクルについての出張授業



手作りの回収ボックスなど、工夫を凝らして、衣服回収の協力を募りました。



新しいごみの処理施設 あつあいクリーンセンターが本格稼働!

問 厚木愛甲環境施設組合 ☎ 046(297)1153

厚木市、愛川町、清川村で構成される「厚木愛甲環境施設組合」が厚木市金田で建設を進めてきた新たなごみ処理施設「あつあいクリーンセンター」が12月1日から本稼働を開始しました。焼却灰や粗大ごみから回収した鉄やアルミなどは全て資源化。また、発生した余熱や発電した電気を有効活用するなど、環境に配慮した最先端の施設となっています。

ごみの出し方や分別方法などは変更ありませんが、「事業系一般廃棄物」については、「あつあいクリーンセンター」へ直接持ち込むか、収集運搬の許可を受けた業者に処理を依頼する必要があります。



施設の仕組みを見て学ぶ見学者コース(完全予約制)

●開催日 12月16日(火)以降の火曜、水曜、第2土曜(祝日、年末年始を除く)
午後1時30分～3時30分

●申し込み 開催日の7日前までに、メールで申込書を厚木愛甲環境施設組合へ。
✉ atsugi-aiko@r3.dion.ne.jp
詳しくは組合ホームページをご覧ください。



厚木愛甲環境施設組合
ホームページ



大掃除はお早めに! 間 美化プラント 046(281)2258 環境課 廃棄物対策班 (内線)3513

年末年始のごみ持ち込み・収集のお知らせ

美化プラント

年末年始は美化プラントが非常に混み合います。ごみの持ち込みはできる限り避けるよう、ご協力をお願いします。

●ごみ受け付け時間(平常時)

平日 午前9時～11時30分 土曜 午前9時～11時30分
午後1時～4時30分

●ごみ受け付け時間(年末年始)

年末は12月27日(土)まで。新年は令和8年1月5日(月)から受け付けます。

月日	令和7年12月												令和8年1月					
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5			
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月			
午前	9時～11時30分						9時～11時30分						9時～11時30分					
午後	1時～3時						持ち込みできません						1時～4時30分					

年末年始のごみ収集



年末年始はごみ収集の間隔が空きます。「令和7年度版ごみ・資源物収集カレンダー」を確認し、より一層のごみの減量化・資源化と計画的なごみ出しを心掛けてください。また、決められた収集日以外にごみを出さないよう、ご協力をお願いします。

*12月29日(月)は「半原・田代・春日台」、12月30日(火)は「高峰・中津①・中津②」のブロックで「もやすごみ」のみ収集します。



インクカートリッジ、CD・DVD回収リサイクル

回収ボックスを役場本庁舎1階、美化プラント、文化会館、ラビングラザ、レディースラバザに設置しています。回収後は分解・再資源化され、リサイクル品として生まれ変わります。



町ホームページ
「ごみ・資源物収集カレンダー」



使用済み
インクカートリッジ



光学ディスク

生ごみ処理器などの購入補助

家庭から出る「燃えるごみ」の約4割は生ごみです。生ごみ処理器などを使うことで、ごみの減量や臭いの軽減などさまざまなメリットがあります。購入者に対し、費用の一部を助成しています。詳しくは購入前に環境課へお問い合わせください。

●補助金額 購入金額の5分の4

<補助限度額>

- 愛川キエーロ…1基につき29,400円
- 電動式処理機…1基につき10,000円
- 堆肥式処理器…1基につき 4,500円
- 密閉式処理容器…1基につき2,700円



町ホームページ
「愛川キエーロ」
購入費の補助

正しく処分!小型充電式電池

小型充電式電池は、収集車やごみ処理場で圧縮されると発火や爆発することがあり、火災事故が増えています。

使用製品の例



燃やすごみや他の不燃ごみと一緒に出さないでください

●正しい処分方法

充電池単体(ビニールテープで絶縁処理をする)または充電池が取り外せない製品をビニール袋に入れて資源Aの収集日に、指定のゴミ集積所へ出してください。



50センチメートル超の製品は粗大ごみとなります。「使用済小型充電式電池のリサイクル(回収)」

パソコンのリサイクル事業

パソコンには、金、銀、銅などの貴重な金属資源がたくさん使われています。リネットジャパンリサイクル株式会社と連携し、適正なリサイクルを促進しています。



町ホームページ
「パソコンリサイクル」

1 お申し込み



インターネットから
お申し込みをしてください。

2 回収物を詰める



データーを消して
段ボール箱に詰めるだけ!

3 佐川急便が回収



佐川急便が、ご希望の日時に
回収へお伺いします。

不要品のリユース(再利用)を検討しましょう

愛川町は、おいくらと連携してリユースを推進しています。

**おいくら? なら 不用品を捨てるより
手軽に早く売れるかも!**

インターネットサイト「おいくら」を運営する株式会社マーケットエンタープライズと連携し、リユース促進に取り組んでいます。不要になった品物は、「おいくら」を通じて買い取りの査定依頼を出すことができ、家具や電化製品などの大型製品も対象です。

詳しくはコチラ「愛川町×おいくら」から▶

